

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 884 号	氏名	船原 まどか
学位審査委員	主査 朝比奈 泉 副査 澤瀬 隆 副査 齋藤 俊行		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価</p> <p>本研究は、口腔がん手術患者において術中術後の口腔内細菌数の推移を調べるとともに、抗菌薬局所投与による細菌増殖抑制効果について検討している。本研究は口腔がん手術における手術部位感染予防を目的とした新たな口腔ケア方法確立の可能性があり、研究目的として十分に妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>気管切開を伴う口腔がん手術に対し継時的に舌背、頬粘膜、口蓋、口腔内貯留液中の細菌数を細菌数測定装置を用いて測定し、舌背、口腔内貯留液中の細菌増殖が最も著明であると明らかにした。次に術中ポピドンヨードゲル、テトラサイクリン軟膏を細菌増殖が著明であった舌背に塗布比較し、テトラサイクリン軟膏の除菌効果を確認した。次に術後 ICU にてその効果持続時間を検討した。以上によりテトラサイクリン軟膏により 6 時間程度口腔内貯留液中の細菌増殖が抑制されることが示され、研究手法は妥当であった。</p> <p>3. 解析・考察の評価</p> <p>本研究により、気管切開を伴う高侵襲の口腔がん手術後患者の舌背にテトラサイクリン軟膏を塗布することで口腔内の細菌増殖を抑制できることが明らかにされた。しかしながら予備的研究であることから、今後症例数を増やし、本研究手法により実際に SSI が抑制可能であるか、また SSI に関連しどのような細菌が増殖するかさらに検討する必要がある。</p> <p>本研究で得られた知見は、新たに細菌数に着目し、除菌を中心とした新しい口腔ケア方法を確立する上でも非常に有効であり、今後の口腔がん SSI 予防に向けた口腔ケア方法の確立に貢献できると期待される。</p> <p>以上のように、本論文は挿管中は舌背上と口腔内貯留液中の細菌数は著明に増加すること、テトラサイクリン軟膏を舌背上に塗布すると約 6 時間は口腔内貯留液中の細菌数の増殖を抑制できることを明らかにしたものであり、今後の口腔がん SSI 予防を目的とした新たな口腔ケア方法の確立に貢献できると期待され、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値すると判断した。</p>			